

公式試合記録



公益社団法人 日本ホッケー協会

大会名 第87回 全日本男子ホッケー選手権大会

試合番号	備考	年	月	日	時間	場所	ピッチ
15	決勝	平成 25	12	8	11:00	阿須運動公園ホッケー場	人工芝 (W)

チーム名

天理大学

試合	1	-	2
(前半)	1	-	1
(後半)	0	-	1
延長	0	-	0
	0	-	0

チーム名

名古屋フラーテルホッケーチーム

先発	背番号	氏名	G	Y	R
レ	1	井川 大地			
レ	2	膳棚 大剛			
レ	4	松村 洋介			
レ	5	岩田 力也			
レ	6	落合 大将			
51	7	三谷 力哉			
20	8	福士 紘平			
6	9	小原 一浩			
レ	10	黒川 大地			
レ	11	星 卓			
	12	神野 将			
レ	13	大澤 匠			
	14	假屋 大輝			
8	15	山城 嘉大			
レ	16	小澤 翔平			
8	17	橋本 航太			
	18	吉川 貴史			
レ	19	瀧澤 隆介			
	21	松本 匡史			
8	23	石川 嵩晃			
16	24	山水 翼瑛			
レ	26	山田 翔太			

先発	背番号	氏名	G	Y	R
	6	川上 良平			
レ	3	粥川 幸司			
レ	4	小野 知則			
レ	5	中山 康大			
6	6	河内 伸仁			
	7	森嶋 彬			
15	8	塩川 直人			
レ	9	藤本 一平			
6	10	山部 晃嗣			
レ	11	川上 啓			
レ	12	吉原 平太			
レ	13	山下 学			
レ	14	長澤 克好	35		
レ	16	畠山 学			
レ	17	橋 敏郎			
6	18	井島 光希			
レ	19	高瀬 克也			
	20	大野 一平			

チャレンジ権の行使 (成功○、失敗×を記入)

時間					
判定					

特記事項

監督 高原 得次

アンパイア 近藤 聡史

サジェスチョンUP 富山 喜正

ジャッジ 越湖 隆一

ジャッジ 我妻 順子

チャレンジ権の行使 (成功○、失敗×を記入)

時間					
判定					

監督 木原征治

アンパイア 成田 健一

サジェスチョンUP 野澤 達

リザーブアンパイア 戸塚 洋介

T. O. 名取 英生

チーム	時間	No.	種	スコア
名古屋F	18	17	FG	0-1
天理	33	6	PC	1-1
名古屋F	67	2	PC	1-2

チーム	時間	No.	種	スコア

チーム	時間	No.	種	スコア

戦 評 用 紙

大会名 第 8 7 回 全日本男子ホッケー選手権大会

試合番号	備考	年	月	日	時間	場 所	ピッチ
15	決勝	H 25	12	8	11:00	阿須運動公園ホッケー場	人工芝 (W)

チーム名

天理大学

試 合	1	-	2
(前半)	1	-	1
(後半)	0	-	1
延 長	-	-	-

チーム名

名古屋フラーテルホッケーチーム

先発	背番号	氏 名	G	Y	R
レ	1	井川 大地			
レ	2	膳棚 大剛			
レ	4	松村 洋介			
レ	5	岩田 力也			
レ	6	落合 大将			
51	7	三谷 力哉			
20	8	福士 紘平			
6	9	小原 一浩			
レ	10	黒川 大地			
レ	11	星 卓			
	12	神野 将			
レ	13	大澤 匠			
	14	假屋 大輝			
8	15	山城 嘉大			
レ	16	小澤 翔平			
8	17	橋本 航太			
	18	吉川 貴史			
レ	19	瀧澤 隆介			
	21	松本 匡史			
8	23	石川 嵩晃			
16	24	山水 翼瑛			
レ	26	山田 翔太			

先発	背番号	氏 名	G	Y	R
6	2	川上 良平			
レ	3	粥川 幸司			
レ	4	小野 知則			
レ	5	中山 康大			
6	6	河内 伸仁			
	7	森嶋 彬			
15	8	塩川 直人			
レ	9	藤本 一平			
6	10	山部 晃嗣			
レ	11	川上 啓			
レ	12	吉原 平太			
レ	13	山下 学			
レ	14	長澤 克好	35		
レ	16	畠山 学			
レ	17	橋 敏郎			
6	18	井島 光希			
レ	19	高瀬 克也			
	20	大野 一平			

【戦評】

名古屋フラーテルホッケーチームのセンターパスにより、試合が開始された。試合序盤から両者ともチャンスを作り出すものの、得点にはつながらず。12分に名古屋FがPCを取得するも得点とはならなかった。名古屋Fは巧みなパス回しで確実にボールを進め、17分#6河内からのパスを#17橋が押し込み先制点を決めた。

天理大学もスピードを活かした速いパス回しと高いボールキープ力で31分にPCを取得し、#4松村から#6落合へのパスサータッチが決まり1-1の同点で前半を折り返した。

後半早々に45分名古屋FがPCを取得するも得点にはならない。

その後も名古屋Fが決定的なチャンスを作り出すも、天理大学の粘り強いディフェンスとGK#1井川の好セーブで追加点を許さなかった。名古屋Fの熟練された技術による怒涛の攻撃が続くなか66分名古屋FがPCを取得し、#2川上がリバウンドを冷静に決め2-1とリードした。その後、速攻に転じた天理大学は68分PCを取得しアゲインとなり、#4松村が力強いドラッグシュートを右下へ放つもポストに当たり、惜しくも得点にならない。最後まで両者一本も譲らない緊迫した雰囲気の中、試合終了の笛が鳴り、2-1で名古屋Fが天理大学を下し二年連続17回目の優勝を決めた。